

1 都立高等学校の入試の仕組み

都立高校の入試は、推薦に基づく入試（推薦入試）と学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）があります。

なお、学力検査によらない入試を行う学校もあります。

推薦に基づく入試（推薦入試）

- 推薦に基づく入試の目的は、以下のとおりです。

基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力や、自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。

- 推薦に基づく入試は、主に都立高校全日制課程で実施します。対象となるのは、以下の二つの条件を満たす生徒です。

- (1) 平成28年12月31日現在、都内在住で、都内の中学校に在学していて、入学後も引き続き都内に在住し、平成29年3月に都内の中学校を卒業する見込みの生徒
- (2) 志願する都立高校を第1志望とする生徒

- 推薦に基づく入試には、以下の2種類があります。

- (1) 一般推薦

一般推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。

検査は、集団討論、個人面接、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査を組み合わせて実施します。

集団討論と個人面接は、原則として全ての学校で実施します。また、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査は、それらの中から各学校が一つ以上を選んで実施します。

集団討論、個人面接、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の内容については、各学校で定めます。

選考は、調査書点のほか、集団討論及び個人面接、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の各点数を総合した成績で行います。

調査書点	集団討論・個人面接点（※1）	小論文又は作文点（※2）	実技検査点（※2）	その他学校が設定する検査の点数（※2）
総合成績				

（※1）集団討論を実施しない学校もあります。

（※2）小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の中から、各学校が一つ以上を選んで実施します。

- (2) 文化・スポーツ等特別推薦

文化・スポーツ等特別推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。

文化・スポーツ等特別推薦は、実施する学校と実施しない学校があります。また、募集人員は、一般推薦の募集人員の内に含まれます。

検査は、文化・スポーツ等特別推薦を実施する全ての学校で、個人面接又は集団面接及び実技検査を実施します。また、作文など、その他の検査を実施する場合は、各学校で内容を定めます。

選考は、調査書点のほか、個人面接又は集団面接、実技検査及び各学校が定めたその他の検査の各点数を総合した成績で行います。

- 推薦に基づく入試における調査書点は、調査書における各教科の観点別学習状況の評価（全37観点）又は評定（9教科）のどちらか一方を点数化します。ただし、エンカレッジスクールとして指定された都立高校は、観点別学習状況の評価を用います。

点数化するに当たり、観点別学習状況の評価を用いる場合は、各都立高校の特色に応じて、特定の観点の配点を高くするなどして活用します。評定を用いる場合は、特定の教科の評定に比重をかけることは行いません。

調査書点の点数化については、4～5ページを御覧ください。

- 各学校の募集人員に占める推薦入試の募集人員の割合については、11月上旬に発行予定の「平成29年度東京都立高等学校募集案内」で確認してください。

学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）

学力検査に基づく入試では、第一次募集の結果、入学手続人員が募集人員に達しない学校が、第二次募集を行います。また、都立高校には、あらかじめ募集人員を分割し、第一次募集期間における募集（分割前期募集）と第二次募集期間における募集（分割後期募集）の2回に分けて募集を行う学校があります。

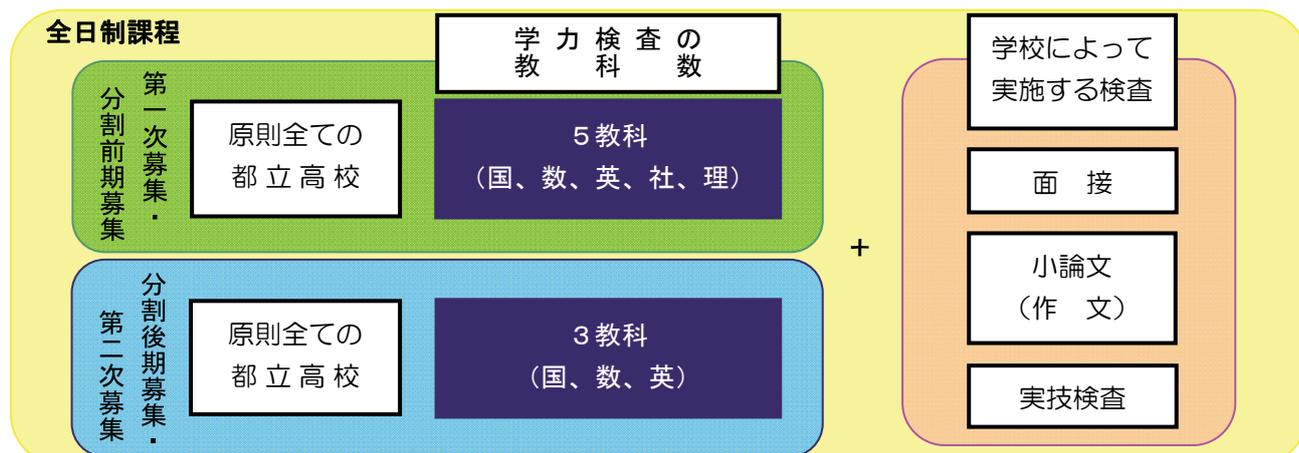
平成28年度入試から、皆さんが、中学校で身に付けた各教科の「基礎的・基本的な知識・技能」や「それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を的確に評価して選抜することを目的とし、入試制度を改善しています。

学校ごとの選抜方法や検査方法等の詳細は9月中旬に決定し、東京都教育委員会のホームページに掲載します（東京都教育委員会のホームページのURLは、この冊子の裏表紙を御覧ください。）。

なお、詳しい内容は、11月上旬に発行予定の「平成29年度東京都立高等学校募集案内」に掲載します。

- 受検教科は、全日制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、国語、数学、英語、社会、理科の5教科を実施します（ただし、芸術及び体育に関する学科については、当該学科に関する能力、適性等をみるため実技検査を行うことから、学力検査は3教科となります。）。また、分割後期募集・第二次募集では、原則として、国語、数学、英語の3教科を実施します。

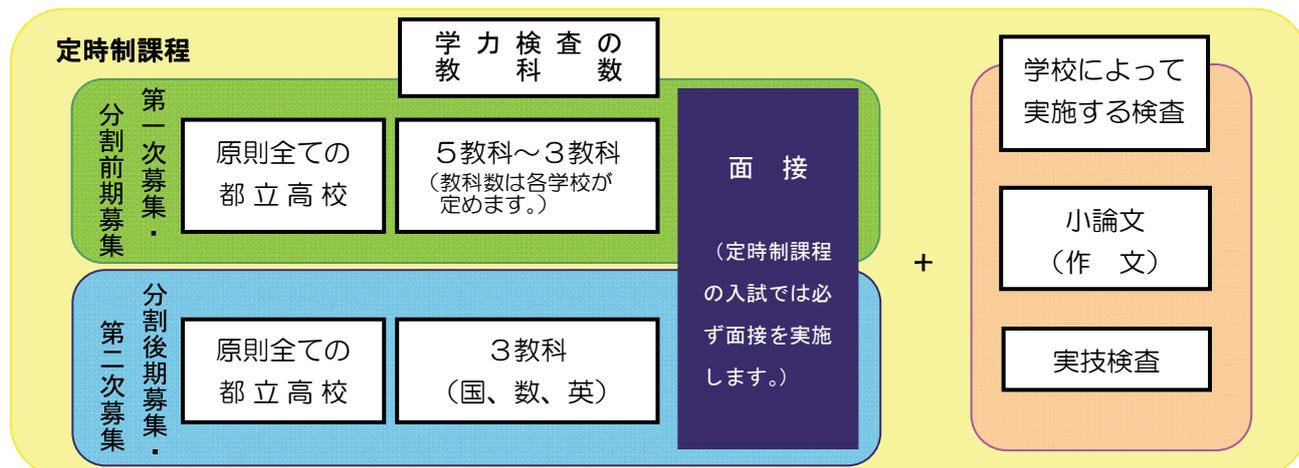
なお、学校によっては、学力検査に加え、面接、小論文又は作文、実技検査を実施する場合があります。



定時制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、国語、数学、英語、社会、理科の5教科の中から3教科以上を実施します（実施する教科については、各学校が定めます。）。また、分割後期募集・第二次募集では、原則として、国語、数学、英語の3教科を実施します。

なお、定時制課程では、第一次募集・分割前期募集、分割後期募集・第二次募集のどちらにおいても、面接を必ず実施します。

学校によっては、学力検査と面接に加え、小論文又は作文、実技検査を実施する場合があります。

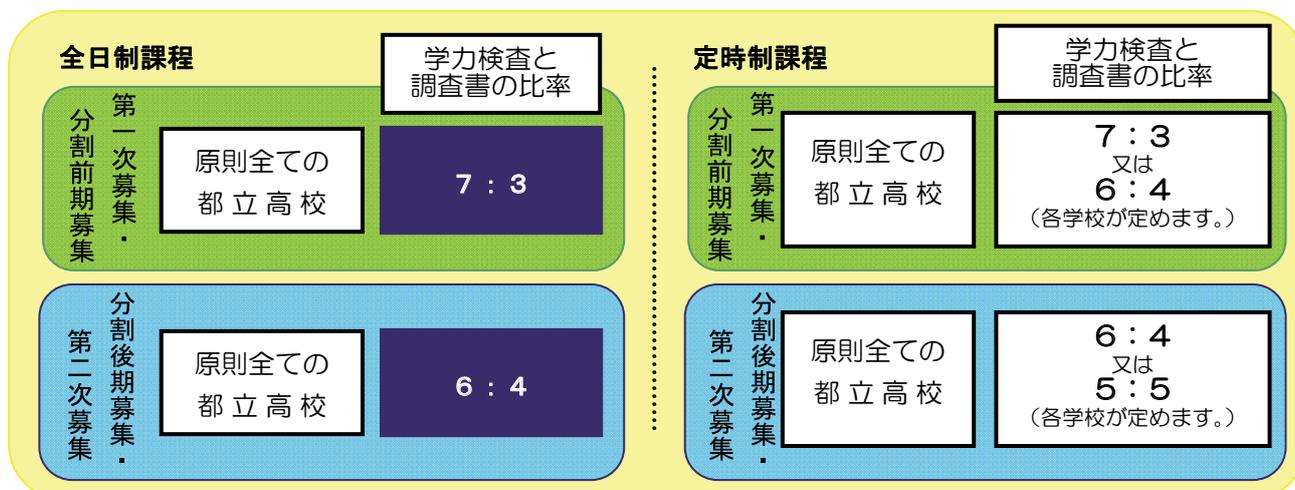


- 選考は、学力検査の得点及び調査書点のほか、面接、小論文又は作文、実技検査を実施する学校ではこれらの点数を総合した成績で行います。

学力検査の 得点	調査書点	面接点 (※)	小論文又は 作文点 (※)	実技検査点 (※)
総合得点				
総合成績				

(※) 面接、小論文又は作文、実技検査を実施しない学校もあります。

- 学力検査の得点と調査書点の比率は、全日制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、7：3、分割後期募集・第二次募集では、原則として、6：4になります（ただし、芸術及び体育に関する学科については、学力検査が3教科となることから、どちらの募集も6：4となります。）。また、定時制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、7：3又は6：4のどちらかを各学校が定め、分割後期募集・第二次募集では、原則として、6：4又は5：5のどちらかを各学校が定めます。



- 学力検査に基づく入試における調査書点は、学力検査を5教科で実施する場合に、学力検査を実施しない実技4教科について、評定の合計を2倍して、点数化します。
学力検査が3教科（国語・数学・英語）の場合には、これらの教科を除いた6教科の評定の合計を2倍して、点数化することになります。
学力検査に基づく入試における調査書点の点数化については、6ページを御覧ください。
- 面接、小論文又は作文、実技検査の満点は、各学校で定めます。
- 「男女別定員制の緩和」、「傾斜配点」、「学力検査問題のグループ又は自校による作成」、「学力検査によらない入試」といった特色ある入試を実施する学校もあります（45～50ページのQ&A参照）。

学力検査によらない入試

- チャレンジスクール（26ページ参照）では、学力検査を行わず、志願申告書、個人面接及び作文により選考を行います（調査書及び自己PRカードの提出は不要です。）。
- エンカレッジスクール（27ページ参照）では、学力検査を行わず、調査書、個人面接、小論文又は作文及び実技検査の各得点を総合した成績で選考を行います。